



龍族

RYUZOKU
第 14 号

南天会
平成 31 年
1 月 20 日

仏教徒としての生き方を 実践で示して下さる

宮淵 泰存

2006年3月、私は三度目のインド仏跡巡拝をし、それなりに満足していました。その時、ガイドのミナ氏より、今インドで急激に仏教が広まっている所があると聞きましたが、それが何処か、また何を意味しているのか分かりませんでした。

帰国後、録りためてあったビデオの中に『男一代菩薩道—インド仏教の頂点に立つ男—』を見つけ、観て感動しました。「困っている人を助ける、虐げられた人々の味方になる」という佐々井上人の菩薩行の姿が目の前に迫ってきました。また仏教遺跡の発掘やブツダガヤ大菩提寺返還運動は全ての仏教徒の願いです。アンベードカル仏教大改宗式の導師をお勤めなさる会場には、人々の信頼と仏教徒になれる喜びがあふれています。すべての人々は生まれながら平等で差別されないという仏教の教えが活きています。

日蓮聖人は『土籠御書』で「法華経を余人のよみ候は、口ばかり、言葉ばかりは読めども心は読まず。心は読めども身に読まず。色身二法共にあそばされたるこそ貴く候へ」と仰せですが、私自身が仏教徒としてなすべきことをなしていないと痛感させられました。

佐々井上人にぜひお会いしたい、活きた仏教のお手伝いがしたいと思い、インドに赴き11月28日ニューデリーのミナ氏のマンションで佐々井上人に面談しました。佐々井上人の活動を取材し、その後教化センター情報などに掲載させていただきました。

佐々井上人は、「なんだか会わなくてはならないよ

撮影 山本宗輔

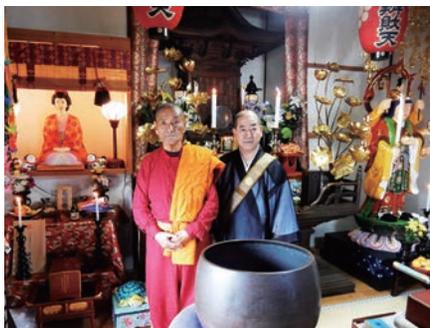


南天会賛同人)

うな気がして来ました」と始め仰いました。私が「妙光寺の弁財天は、厳島弁財天の分身像で、広島城より上田城に嫁がれた亀姫様が捧持して来たものです。『法華経』では娑竭羅龍王の娘は文殊師利菩薩の教化を受けて八才にして成仏したと書かれています。仏教徒の中では、この成仏した八才の龍女が、日本には弁財天として応現され、また身延山には七面大明神として応現されたと感得されています」とお話しすると、「なんだ、弁財天つながりか!」と仰り佐々井厳島神社について語られ始めました。マンセル遺跡、文殊師利菩薩大寺、シャツカラ湖、亀の岩山等々、すべてがご縁のある名で、妙に旧知の知り合いのように感じられ、尊敬の念を益々深めたものです。『南天龍宮城 沙門秀嶺』の色紙はこの時揮毫していただいたもの。

その後、アンベードカル仏教大改宗式、妙法の行進、龍樹菩薩大寺落慶式等に参列させていただいたり、上人の活動をお手伝いさせていただきながら、今日に至るのですが、2018年はご帰国の折、新たに制作した彩色八臂弁財天大像に入魂法楽をしていただき大変ありがたい年となりました。来年は大菩提寺返還運動が良い方向に向かっていくことを願ってやみません。

(長野県妙光寺住職





撮影：山本宗輔

ブッダガヤ大菩提寺返還運動特集

佐々井上人緊急来日

「ブッダガヤ大菩提寺返還に向けて」 全日本仏教会申し入れ

名古屋集会：2018年11月10日

東京集会：2018年11月12日

この度、佐々井上人はブッダガヤ大菩提寺管理権返還に向けての裁判が本格審議に入る中、全日本仏教会にこの問題の周知と協力を要請するため、急きよ来日されました。11月6日から13日まで1週間日本に滞在され、7日に支援者との座談会、10日に名古屋集会、12日に全日仏申し入れと東京集会を行いました。急な来日の為、会員全員へのご案内が出来ず、ホームページ、フェイスブックでの告知となっていました。ご存じなかった方には、事後報告となり申し訳ございません。以下、ご報告いたします。

2012年より佐々井上人が原告となりインド最高裁に提訴している1949年ブッダガヤ寺院法の無効を訴える裁判が、本年7月から本格審議となり、7月20日第1回、9月24日第2回の審議が行われ、佐々井上人は有力な弁護団を組織して、9月には自らもデリーの最高裁に出廷し、いよいよ結審に向けて動きはじめました。これに伴い弁護士に支払う裁判費用を準備する必要があり、南天会でもパンフレットを作成するなどして、6月の来日時にアピールを行い会員の皆様にも告知させていただきました。おかげさまで順調に裁判費用支援は集まっております。

しかしブッダガヤ大菩提寺返還という世界の仏教徒にとっての最重要課題であるにも関わらず、日本においてはこの問題についての関心があまりに薄く、今一度日本仏教徒にこのことを真剣に考えていただきたいとの思いから、各伝統教団が参加する日本唯一の全国組織である全日本仏教会に申し入れを行うことになりました。佐々井上人は単身飛行機で成田に到着され、南天会が対応して来日をお世話しました。

11月10日 「ブッダガヤ大菩提寺返還に向けて」名古屋集会

名古屋市の八事山興正寺光明殿にて講演会開催。南天会賛同人の小池一郎さんが中心となり企画されました。事務局による返還運動についての経緯説明の後、いつもの如く立ったままで聖地奪還への決意を語られました。佐々井上人が特に訴えられたのは、筋を通すということ、問題を先送りしないということであったかと思えます。インド仏教徒にとって「ブッダはビシュヌ神の化身である」とするヒンドゥー教の教えは、カースト差別を否定した仏教を根本から否定することであり、それを理由に大菩提寺がヒンドゥー教の寺院でもあると主張する管理委員会の言い分は、決して容認できないものです。また100年以上も前から多くの人々が携わってきた大塔返還への道のりは、何としても成就せねばならぬ

いことであり、様々な利権や錯誤を残したまま、問題を有耶無耶にしたのでは未来は開かれませんが、まさに共に暮らしてきた人々が望む大塔の返還を、佐々井上人は自らの使命と認め、最後までやり抜くことを決意されているのです。

11月12日 全日本仏教会への申し入れ 東京集会

午前11時、東京芝の増上寺境内地にある全日本仏教会の事務所を訪れ、戸松義晴事務総長、和田善秀総務部長と面会し、江川辰三会長、副会長、代表理事あての申し入れ（6、7面掲載）を読み上げ提出しました。南天会の世話人賛同人10名が出席し、戸松事務総長と懇談いたしました。戸松事務総長からは、この場ですぐに協力を決めることはできないが、会長以下理事の皆さんに伝え理事会で審議することを約束され、また自身が執行役員を務めるWFB（世界仏教徒連盟）のパワン・ワナメッティ会長にも伝えたいという発言がありました。後日、同席していた南天会世話人の中村龍海氏が申し入れを英訳し（8、9面掲載）、戸松事務総長に送っております。なお、この前の週の11月5〜9日にかけて、WFBの世界仏教徒会議が日本で開催され、全日仏が主催者となり様々な会議や催しが行われています。しかしその会議の席上で、ブッ

佐々井秀嶺師来日特別講演
ブツダガヤ大菩提寺
返還に向けて
名古屋集会

ブツダ成道の根本聖地を仏教徒の手に！
 大導師佐々井秀嶺上人とインド仏教徒の
 四半世紀に及ぶ運動ついに成るか。
 佐々井師緊急来日。
 今、日本仏教徒に呼びかける！！

2018年 11月 10日(土)
 午後2時半～4時 2時開場
 八事山興正寺 光明殿2階
 (名古屋市中区八事本町78)
 地下鉄鶴舞線・名城線「八事駅」1番出口徒歩3分
 参加無料 申し込みは不要です。
 主催：南天会 (佐々井秀嶺上人を支援するネットワーク)
 お問い合わせ: koike@maxis-inc.com(小池)



佐々井秀嶺 (きさい しゅうれい)
 1935年岡山県生まれ。龍樹菩薩の
 聖告に従ってインドナグフルに入り、
 以来50年、現地の仏教徒と寝食
 を共にし、アンベドカル博士の不可
 触民解放運動、仏教復興運動を継承。
 およそ1億人とも言われるインド仏
 教徒の最高指導者となる。
 1992年より、今なおヒンドゥー教
 徒主体の管理下にあるブツダガヤ大
 菩提寺の返還運動を主導。ブツダガヤ
 寺院法の無効を訴える裁判を係争中。
 現在83歳。

<https://www.nantenkai.org/>
 Facebook 佐々井秀嶺資料室

名古屋集会チラシ



上掲4点 名古屋集会

ダガヤ大菩提寺の管理権の問題が議題に
 上がることは残念ながら無かったよう
 です。戸松事務総長によると、WFBの現
 会長はこの問題に関心を寄せているとい
 うことだったので、佐々井上人の申入れ
 が届くことを期待します。

午後からは、浄土宗大本山増上寺の会
 場をお借りし、「ブツダガヤ大菩提寺返
 還に向けて」東京集会を開催しました。
 今回の来日が決まった時、せっかく全日
 仏に申し入れをするのだから是非大勢の
 人を集めて、マスコミにも宣伝し、また
 研究者の方々にも集まっていたら、日
 本仏教徒がブツダガヤについて考える一
 つの機縁にしたいと思いましたが、力及
 ばずそこまでの準備はできませんでした。

現在の日本においては、かつてダルマ
 パーラが来日し、印度仏蹟興復会が結成
 された明治の時に比べると、明らかに日
 本人のブツダガヤに対する関心は低調で
 す。単なるパワースポットのな場所とし
 ての認識が大勢を占め、その歴史的、ま
 た仏教的な理解は非常に薄弱で、それは
 ブツダガヤに参拝する日本人の態度にも
 表れています。佐々井上人は、日本の仏
 教徒は世界の仏教徒と共に道を歩んでい
 ないと言われます。それはインドの今や
 1億人を超える仏教徒に対してもそうだ
 と言えます。支援や協力と言っても、本
 当の意味で仏教徒民衆とは密着していな
 い、だからブツダガヤにも関心が無いの

東京集會
ブツダガヤ大菩提寺
返還に向けて

佐々井秀嶺師来日特別講演

ブツダ成道の根本聖地を仏教徒の手に！
大導師佐々井秀嶺上人とインド仏教徒の
四半世紀に及ぶ運動ついに成るか。
佐々井師緊急来日。
今、日本仏教徒に呼びかける!!

2018年 11月 12日(月)
午後2時～4時 1時半開場
大本山増上寺 増上寺会館 1階「楯の間」
(東京都港区芝公園4-7-35 TEL03-3432-1431)
参加無料 申し込みは不要です。
※午前 11 時に増上寺境内明照会館 2 階の全日本仏教会へ
申し入れを行います。
主催：南天会 お問い合わせ：090-5304-8955(佐伯)



明照会館 2 階
全日本仏教会

増上寺
Zojji Temple

増上寺会館 1 階「楯の間」

大門駅
Daimon Station

都営浅草線
Toei Asakusa Line

都営大江戸線
Toei Odoko Line

新大塚駅
Shinjuku Station

JR 有楽町線
JR Yamanote Line

佐々井秀嶺 (ささい しゅうれい)
1935年岡山県生まれ。龍崗菩薩の空告に
従ってインドナグプールに入り、以来50
年、現地の仏教徒と親交を共にし、アンベ
ードカル博士の不可触民解放運動、仏教復興運
動を継承。およそ1個人とも言われるインド
仏教徒の最高指導者となる。
1992年より、今なおヒンドゥー教徒主体
の管理下にあるブツダガヤ大菩提寺の返還
運動を主導。ブツダガヤ寺院法の無効を訴え
る裁判を係争中。現在83歳。

<https://www.nantenkai.org/>
Facebook 佐々井秀嶺資料室

東京集會チラシ



上掲5点 東京集會 撮影：山本宗輔

宗派に分かれていることも問題です。インドに来てまで自分の宗派の枠から出ることができない。それでは民衆と密着することはできない。アンベードカル博士の話を読みました。現在の日本人には想像もできない辛酸をなめてきた人々を導いて、カースト制を撤廃し、仏教復興を成し遂げた不屈の魂。佐々井上人は、その著作を読みその後を慕い、アンベードカル博士の人生に感動していると言われます。「教育せよ 団結せよ 闘争せよ」という博士の言葉に従い、それを実践していくのだと。だからブツダガヤの問題も「闘争」ということにおいて必ず完遂しなくてはならない。大菩提寺とは仏教徒にとっての心臓であ

だ。

その心臓を他宗教徒の管理に委ねる。ということでは、仏教の未来は開かれな

い。

「私はやり抜きます！」この日、いつにも増して力強く息をのむような迫力で話をされた佐々井上人。その決意が十分に伝わった講演となりました。最後には参加者全員で「ジャイ・ビーム」三唱。翌日には成田からインドに帰国されました。南天会は、佐々井上人の大誓願であるこの運動にできる限りの支援をしていきたいと思えます。皆様是非ご協力ください。

現在係争中の裁判情報は以下の通りです。
インド最高裁判所 市民法廷 書面告訴
2012年 訴訟番号380

【大菩提寺裁判費用支援者御芳名】

東京都	澤登拓	2000000円	東京都	関口英弥	100000円	
東京都	密門会	織田隆深	10000000円	静岡県	武山博子	100000円
神奈川県	井出正子	10000000円	東京都	田坂正樹	1000000円	
東京都	遠藤一喜	10000000円	北海道	村井紘一	1000000円	
福井県	杉本玄海	5000000円	群馬県	森井伸幸	1000000円	
愛知県	前田卓幸	5000000円	広島県	遊亀山清照	1000000円	
長野県	宮淵泰存	5000000円	栃木県	吉崎光徳	1000000円	
岡山県	菅木智子	3000000円	台湾	沈静香 輝泰	1000000円	
長野県	手塚龍天	3000000円	東京都	今村美津子	500000円	
静岡県	山口いづみ	2000000円	愛知県	岩田隆治	500000円	
大阪府	水落忍	1500000円	埼玉県	岡本佳子	500000円	
東京都	飯泉竜子	1000000円	東京都	片平柳	500000円	
福島県	石井隆俊	1000000円	兵庫県	佐伯生子	500000円	
北海道	石川真知子	1000000円	愛知県	佐々木すみ子	500000円	
岡山県	漆間徳然	1000000円	千葉県	嶋村可奈	500000円	
東京都	大泉貴司	1000000円	京都府	田上三郎	500000円	
長野県	奥平心月	1000000円	千葉県	田中克幸	500000円	
愛知県	加藤政子	1000000円	愛知県	中村寛	500000円	
神奈川県	金子勇	1000000円	東京都	野沢恵美子	500000円	
東京都	久保田明史	1000000円	兵庫県	原田裕介	500000円	
インド	Khursheed Ahmed Khan	1000000円	岡山県	片田知宏	300000円	
東京都	小池勝	1000000円	東京都	甲斐三晴	200000円	
愛知県	八事山興正寺	1000000円	岡山県	山根日出紀	200000円	
岡山県	坂田龍晴	1000000円	第二次集約	3742000円		
インド	坂田マルハン美穂	1000000円				
京都府	志賀浄邦	1000000円				

※南天会を通じて「裁判費用援助」としてご支援いただいた方のお名前を掲載しております。

(追記) 裁判状況報告

2019年1月6日時点

昨年9月24日に決定された1月3日の

第3回公判について、インドラ寺事務局長のアマット氏がデリーに向かい、原告側(佐々井上人) 弁護団と打ち合わせを行いました。事務手続き上の不備により今回は審理、裁判は行われませんでした。昨年10月に最高裁判事(チーフジャッジ)が交替し、前任者(政権寄り)とみられ仏教徒に不利な判決を下す可能性があった)が9月24日の決定書類にサインをしていなかったことが原因とのことです。後任のランジャン・ゴーガイ最高裁判事は公平な裁判が期待できる人事となっております。

現在インド国内では、アヨーディヤ事件の判決(注※)や農民による借金無効裁判、モディ政権の汚職など重要な裁判が次々と行われており、ブツダガヤ大菩提寺管理権裁判は継続審理状態に据え置かれる状況となっております。

佐々井上人の弁護団は、この大菩提寺管理権問題がインド国内のみならず国際的にも注目される非常に重要な裁判である

ることを訴えて、来月2月にも早々に審理を開くよう要請するため、原告の佐々井上人と連名で嘆願書を提出する方針です。

佐々井上人側の弁護団は、元最高裁判所長官のK・G・パラクリシュナン氏、マンモハン・シン首相の時、法務大臣、外務大臣を歴任したコングレス党のサルマン・クルシッド氏をはじめ、最高裁判所首席弁護士や元インド司法長官等5名の著名な弁護士に依頼しています。

※アヨーディヤ事件 1992年 ウッタールプラデーシュ州アヨーディヤーのイスラム教寺院バブリー・マスジットをヒンドゥー教原理主義者が破壊したことをきっかけに、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒の対立が激化し、全インドで1200名の死者が出る事件となった。当時UP州の政権党だったインド人民党は解任され、支持母体のRSS(民族義勇団)は非合法化された。昨年最高裁で、BJP側の主張が退けられる判決が出ている。

全日本仏教会会長 江川辰三様
副会長 代表理事 御各位

ブッダガヤ大菩提寺管理権返還に向けて協力・支援のお願い

世界の仏教徒の根本道場であるインド・ビハール州ブッダガヤの大菩提寺は、釈尊成道の現当地にして地上唯一の聖跡であります。釈尊が禅定に入られた菩提樹を記念してマウリヤ朝アショーカ大王の時代に金剛宝座が設けられ、歴代の王朝もその跡を尊び大菩提寺として伽藍が整えられました。7世紀にブッダガヤを訪れた玄奘三蔵は現在とほぼ同じ高さの大塔を拝しています。仏法の伝わった国々では、近き人は巡礼に赴き、遠き人は思いを馳せて世尊の遺跡を偲びました。成道より凡そ1700年、この地は法輪の軸として世界の仏教徒の中心地点でありました。

しかし13世紀初頭イスラム軍の侵攻によって、インド各地の仏教寺院は破壊され、多くの僧尼が殺されて仏教は壊滅状態となり、大菩提寺は破壊から免れるため土に埋めて隠されてしまいました。そして仏教徒のいなくなったインドで、その存在は忘れ去られてしまいました。

1880年、インド考古調査局長官アレキサンダー・カニンガムは大菩提寺の位置を特定し大規模な発掘を行い、600年の時を超えて大塔はその姿を現しました。諸国の仏教徒は、ブッダガヤを訪れ再び金剛宝座に額き大塔を拝しました。ところがブッダガヤの地はヒンドゥー教バラモンのマハント氏の取有するところとなっており、境内ではヒンドゥー教の供儀が行われ、仏像は持ち去られ諸王朝の寄進した塔や精舎は破壊の危機に瀕していました。

1892年スリランカの仏教者、アナガーリカ・ダルマパーラ居士はこの状況を憂慮し、大菩提会を設立して大塔の仏教徒への返還運動を開始しました。当時の日本仏教も印度仏蹟興復会を結成してこの運動に協力し、各国の仏教徒も様々な働きかけを行いました。

1947年インド独立後、インド政府はブッダガヤを国際的な仏教の中心地とする方針を示し、1949年ブッダガヤ寺院法を制定して管理委員会を発足させ、大塔の管理権はマハントより管理委員会に移譲されました。しかしこのブッダガヤ寺院法では委員9名の構成の内、必ずヒンドゥー教徒が過半数を占めるように規定されており、実質はヒンドゥー教優位の管理体制が認められていることとなります。これがゆえに私たち仏教徒にとっては容認しがたい様々な不合理が行われ、現代にいたるまでその問題は続いています。

1956年10月14日、インド共和国憲法起草者ババサーヘブ・アンベードカル大菩薩はインドに根強く残るカースト差別のくびきから脱するために中央州ナグプールに於いて、60万人の被抑圧階級民衆と共に仏教に改宗しました。これよりインド仏教は復興の烽火を上げ、自由と平等と博愛の実現の為、法の実践の道を歩み始めました。私は日本に生まれましたが、釈尊の説かれたこの道を進む道程で、貧しくも前を向いて歩み始めたインド仏教徒の民衆に出遭い、共に歩む決心をしました。同じものを食べ同じところに暮らし、改宗式や仏教行事を執り行い、仏教徒を組織して様々な社会運動を行ってきました。そして多くの人々の協力によりインド国籍を取得しインド人となりました。アンベードカル博士の改宗から60年、今やインドの仏教徒はその数を大いに増しつつあります。

ここにおいてインド仏教徒民衆は、自らの信教の根本聖地であるブッダガヤ大菩提寺が他教徒優位の管理下にある状況を憂慮し、1992年、インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会に対し、大菩提寺管理権の仏教徒への返還を求める運動を開始しました。私たちはあらゆる平和的手段により様々な運動を展開してまいりました。首都デリーやブッダガヤに向けてのデモ行進や断食や座り込みなどの運動を敢行し、インド政府大統領やビハール州首相に嘆願書を提出し、国連事務総長に書簡を送り、パリのユネスコ本部やジュネーブの国連人権高等弁務官事務所を訪れてこの問題の国際的な関心を提起しました。25年以上にわたる私たちの運動は、ブッダガヤの状況改善に大きく寄与しています。しかしその根本的な問題である大菩提寺管理権は、依然として1949年ブッダガヤ寺院法を適用したままの状態であり、我々の願いは未だ成就しておりません。

2012年、私はインド最高裁判所に1949年ブッダガヤ寺院法の廃止と新法の制定を求める裁判を提起しました。長らく継続審議となっておりましたが、本年7月本格審議が始まりいよいよ最高裁判決が下されようとしています。

この運動は、アンベードカル大菩薩を導師として立ち上がったインド仏教徒にとって、自らの存在を確立する人権運動でもあります。また世界の仏教徒にとっても、その根本聖地が抱える矛盾の早期解決が望まれています。日本でもダルマパーラの時代から様々な人が関わり、私たちの運動に対しても臨済宗・黄檗宗連合各派合議所、岡山県同宗連など多くの方々からご支援ご協力をいただけてきました。まさにその所願とするところは、ブッダガヤ大菩提寺管理権の仏教徒への完全返還にあります。大菩提寺管理権返還は、仏教徒がその根本聖地を取り戻す運動であり、ブッダガヤを中心に世界の仏教徒が結集し、人類に平和と共生を提言する仏教の未来に大きな貢献となるでしょう。是非この問題を正確に認識し、関心をもってご支援ご協力をいただきたいと思います。

どうか我が祖国である仏教国日本の皆様、同じ教えを灯とするインド仏教徒民衆と共に立ち上がってください。

1. インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会にブッダガヤ大菩提寺管理権返還の提言を行ってください。

それぞれ所属される宗派、本山、組織にてブッダガヤ大菩提寺管理権問題について協議し、インド当局が平和的決断を以て返還を実施するようアピールをお願いします。

2. 裁判費用をご援助ください。

最高裁における長期の裁判には多大な費用が必要となります。是非ご協力をお願いいたします。

2018年 11月 12日
ブッダガヤ大菩提寺全インド解放実行委員会
会長 アーリヤナーガールジュナ佐々井秀嶺

(署名)

Dear Mr. Phan Wannamethee, President of the World Fellowship of Buddhists,

Bodhgaya in Bihar, India, where Lord Buddha sat under the bodhi tree and realized enlightenment, is the one and only sacred place for Buddhists throughout the world. Emperor Ashok built vajrasana as its memorial, and several Dynasties in their respect arranged the cathedral of Mahabodhi Temple. In the 7th century, Xuanzang worshiped the temple which is in about the same height as the present. In countries where Buddhism was inherited, nearby people went to pilgrimage to Bodhgaya remembering Lord Buddha, and distant people remembered and imagined his achievements. Since the enlightenment, Bodhgaya was the center of the world Buddhists for 1700 years.

In the beginning of the 13th century, however, the Islamic army invaded, destroyed Buddhist temples across India and killed many monks and nuns. Buddhism then was destroyed, and the cultural properties of the temple were buried and hidden in the earth. Finally in India where Buddhists are gone, the existence of the temple became forgotten.

In 1880, Alexander Cunningham, the founder of the Archaeological Survey of India, identified the location of the temple and implemented a large-scale excavation so the temple appeared beyond 600 years.

The Buddhists of the different countries visited Bodhgaya, vowed to vajrasana and worshiped the temple again. However, Bodhgaya came to be owned by Mahant, the Hindu brahman zamindar, and Hindu pujas were held in the temple's precincts. The statues of Buddha were taken away and stupas and small temples which the dynasties donated were about to be destroyed.

In 1891, Anagarika Dharmapala, who was a lay Buddhist and worried about the situation of the devastated Bodhgaya, established the Mahabodhi Society and commenced the protest movement for return of Mahabodhi Temple to Buddhists. Buddhists in then Japan established "Indo Busseki Kofuku-kai" (the Society for the Recovery of Buddhist Ruins in India) to cooperate with the movement, and Buddhists in different countries took various actions.

Following the independence of India in 1947, the Indian Government showed a policy to make Bodhgaya an international center of Buddhism, established Bodhgaya Temple Act in 1949 and launched the Bodhgaya Temple Management Committee therefore the management right of the temple was handed over from Mahant to the committee. Under this law, however, it is decided and admitted that a total of nine people, four members of Hindus including Mahant, four Buddhist Indian nationals, and Chairman (Hindu) who is Director of Gaya district of the State of Bihar constitute this Hindu-dominated Management Committee. This fact, thus, still has been the main cause of various unreasonable irrationalities for Buddhists, and the problem continues to the present age.

On 14th October 1956, Maha Bodhisattva Dr. Babasahib Ambedkar, who drafted the Republic Constitution in India, took off from the yoke of the caste discrimination that persisted deeply in India, together with the population of 600,000 people of the suppressed class at Nagpur in Central Province and converted to Buddhism. Then Indian Buddhism raised the burning flame of its reconstruction and began to walk the way of the practice of dharma to realize liberty, equality and fraternity. I myself was born in Japan, but on the way of this road that Lord Buddha preached I met a crowd of Indian Buddhists who were poor but started to walk forward so I decided to walk with them. I have eaten the same things as they have, living in the same place, performing conversion ordinances and Buddhist ceremonies, organizing those Buddhists and doing various social movements. Then, with the cooperation of many people, I acquired Indian nationality and became Indian. As more than 60 years have passed since Dr.

Ambedkar's conversion, now Indian Buddhists are increasing their numbers greatly.

In this way, the Indian Buddhist people got concerned about the circumstances under which Mahabodhi Temple in Bodhgaya, the fundamental sacred place of their own faith, is under the superior control of the other religion. Then in 1992, they started a protest movement calling for return to the Buddhists of the temple to the Government of India, Bihar State Government, and the Bodhgaya Temple Management Committee. We have used various peaceful means and developed various movements. We acted like a demonstration march towards the capital Delhi and Bodhgaya, implemented the campaign such as fasting and sit-in, submitting a petition to the President of Indian Government and Chief Minister of Bihar, sent a letter to the UN Secretary General. I visited the headquarters of UNESCO in Paris and the office of UN High Commissioner for Human Rights in Geneva and raised international interest in this issue. Our movement over 25 years greatly contributes to the improvement of the situation in Bodhgaya. However, the fundamental problem around the management right of the temple is still in the state of applying the Bodhgaya Temple Act of 1949 therefore our wish has not yet been fulfilled.

In 2012, I filed a case in the Supreme Court of India seeking the abolition of the Act and the enactment of a new law. The trial had been suspended for a long time, but full-scale deliberation began in July this year, and finally, the Supreme Court's decision is about to come.

This campaign is also a human rights movement for Indian Buddhists who figured out Dr. Ambedkar as their leader to establish their own existence. Moreover, Buddhists around the world hope for an early settlement of the contradiction of the central sacred place. Even in Japan, various people have been involved since the time Anagarika Dharmapala played an important role, and we have received support and cooperation from many people such as Joint Council for Rinzaï and Obaku Zen and Okayama-ken "Dōwa Mondai ni torikumu Shūkyō Kyōdan Rentai Kaigi" (Religious Sects' Solidarity Conference to Address the Dowa Problem in Okayama Prefecture) for our movement. We are hoping that the management rights of Mahabodhi Temple in Bodhgaya will be fully returned to Buddhists. Its return will make a big contribution to the future of Buddhism where Buddhists around the world will regain their central sacred place, gather together mainly in Bodhgaya and recommend peace and symbiosis for humanity. We will appreciate it if you would recognize this problem accurately, and we also would like you to support and cooperate with concern.

Please, everyone, stand up as Buddhists of the world with Indian Buddhists who have the same teachings of Lord Buddha as the light of dharma.

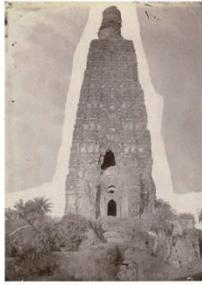
1. Please propose to the Indian Government, the Bihar State Government, the Bodhgaya Temple Management Committee the returning of the management rights of Mahabodhi Temple in Bodhgaya to Buddhists. Please discuss this issue with sects and organizations to which you belong, and appeal to the Indian authorities to carry out the return by their peaceful decision.
2. A long-term trial at the Supreme Court requires a great deal of expenses. Please aid the trial fee.

Sincerely yours,

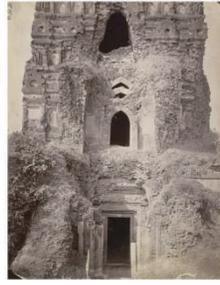
13 Nov, 2018

President of All India Executive Committee for Release of Mahabodhi Temple in Bodhgaya
Arya Nagarjuna Shurei Sasai

修繕前の大菩提寺
(大英博物館図書館)



大菩提寺東側正面アーチ近影
(大英博物館図書館)



平成三十年十一月十日
八事山興正寺 光明殿

佐々井秀嶺師来日特別講演
ブッダガヤ大菩提寺
返還に向けて
名古屋集會



修繕中の大菩提寺(大英博物館図書館)



ヒンドゥー教司祭マハント・ギリ



マハント邸内の仏像

2018. 2 志賀浄邦氏撮影

ブッダガヤ年表(1)

- B. C. 6世紀 釈尊尼連河の菩提樹下で成道
- B. C. 3世紀 アショーカ王により金剛宝座、欄干などが建設される。
- 13世紀初頭 イスラム軍の侵攻により仏教壊滅。ブッダガヤ荒廃。
- 18世紀初頭 ヒンドゥー教バラモンのマハント・ギリ、ムガル皇帝よりブッダガヤ大塔の所有を認められる。
- 1880年 インド考古調査局アレキサンダー・カニングム長官大塔発掘。
- 1891年 **スリランカのアナガーリカ・ダルマパーラ、大菩提会を設立。**大塔の買収運動を展開。
- 1894年 日本で印度仏蹟興復会設立。ダルマパーラの運動を支援。
- 1947年 インド独立。
- 1949年 **ブッダガヤ寺院法施行。**ブッダガヤ寺院管理委員会(BTMC)発足。
- 1950年 インド憲法施行。
- 1953年 マハントよりBTMCへ大塔の引き渡しが行われる。



アナガーリカ・ダルマパーラ(1864~1933)

スリランカの仏教者。1891年ブッダガヤを訪れ、その荒廃した状況を見て「大菩提会(マハーボディンサエティ)」を設立し、大菩提寺返還運動を開始。日本仏教各宗派も協力し、「印度仏蹟興復会」結成。釈迦、釈迦像が中心となって大塔の買収資金を集める。しかしマハントとの交渉は難航し、買収運動は挫折。その後は多くの海外の仏教徒と交流し、仏蹟復興に尽力した。4回来日し、高楠順次郎、田中智学、岡倉天心、河口慧海など多くの日本人と親交を持った。仏教復興運動の先駆者、スリランカ建国の父と呼ばれる。



ジェームズ・クロケット「ビハール州ボドガヤの大菩提寺」(1800頃)
(大英博物館図書館)

1949年 ブッダガヤ寺院法

1949年、**ブッダガヤ寺院管理委員会(BTMC)**を設置

↓
大塔を直接管理

ブッダガヤ諮問会議(BAB)も設置

- 管理委員(9名)
- インド国籍のヒンドゥー教徒4名(マハントを含む)
- インド国籍の仏教徒4名
- ガヤ地区長官(ヒンドゥー教徒であること)
- ヒンドゥー教徒の数的優位が規定されている。



大小の大菩提寺(大英博物館図書館)

2002年 ブッダガヤ大菩提寺 ユネスコ世界文化遺産に認定

- (1) 人類の創造的才能を表現する傑作。
- (2) ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) **現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくともも稀な証拠。**
- (4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- (6) **顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接にまたは明白に関連するもの**



2002年 佐々井上人、パリのユネスコ本部、ジュネーブの国連人権高等弁務官事務所を訪問し、ブッダガヤ大菩提寺のユネスコ、国連による厳正な管理を要請



2003年 インド政府少数者委員会仏教代表に就任。マンモハン・シン首相に嘆願書提出

2016年 P. ムカルジー大統領に嘆願書提出

ブッダガヤ年表(2)

- 1956年 ブッダ入滅2500年を記念してブッダジャヤンティが開催。ブッダガヤを国際仏教センターにする計画が発表される。
B・R・アンベードカル博士、ナグプールで数十万人の人々と共に仏教に改宗。
- 1968年 佐々井上人ナグプールに入る。アンベードカル博士の仏教復興運動を継承、各地で改宗式を行い、仏教徒人口増大。
- 1992年 **ブッダガヤ大菩提寺奪還闘争開始。**「ブッダガヤ大菩提寺全インド解放実行委員会」結成。
- 2002年 ブッダガヤ大菩提寺、ユネスコ世界文化遺産に登録。
佐々井上人はパリのユネスコ本部、ジュネーブの国連人権高等弁務官事務所を訪問。
- 2003年 佐々井上人、インド政府少数者委員会仏教代表に就任。
- 2005年 日本臨済宗・黄檗宗連合各派合議所アビール
- 2012年 インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会を相手に、佐々井上人が原告となり、**1949年ブッダガヤ寺院法の無効を訴える裁判を最高裁に提訴。**
- 2018年 前2件の裁判が終了し、7月本格審議開始。



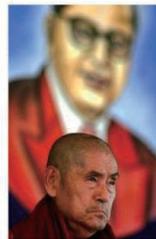
B・R・アンベードカル(1891~1956)

インドの政治家・不可触民解放の指導者。自ら不可触民に生まれ、カースト制による苛酷な差別を受けながらも、研鑽をつみ、政治、法律、思想、哲学など各分野でインドを代表する人物となる。インド初代法務大臣に就任して現インド憲法を起草、不可触民制の撤廃を宣言した。最晩年の1956年、**ナグプールにおいて数十万人の不可触民と共に仏教に改宗する。**インド仏教復興運動の父。その著『ブッダとそのダンマ』はインド仏教徒の指針。

インド共和国憲法 第13条(1950年施行)
憲法と矛盾する憲法施行以前の法律を無効とする違憲審査制が規定されている。

最高裁に提訴

- 2012年 インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会を相手に、佐々井上人が原告となり、**1949年ブッダガヤ寺院法の無効を訴える裁判**をインド最高裁に提訴。
- ブッダガヤ寺院管理委員会を被告とする先行裁判が複数あり佐々井上人の裁判は審議待機の状態が続く。
- 2018年 前2件の裁判が終了し、**7月本格審議開始。**



佐々井秀嶺(1935~)

岡山県生まれ。高尾山薬王院にて山本秀順師について得度。
1968年 龍樹菩薩の聖告に従ってインドナグプールに入り、現地の仏教徒と寝食を共にし、アンベードカル博士の仏教復興運動を継承。
1988年 インド国籍取得
インド名Arya Nagarjuna Shurei Sasai
1992年より大菩提寺返還運動を主導。
1994年アンベードカル国際平和賞受賞
2003年 インド政府少数者委員会仏教代表に就任

1949年 ブッダガヤ寺院法第3項 「委員会の設置」

- (1) 本件開始後、直ちに、(州)政府は(中略)以下の通り、これに寺院土地とそれに付随する財産の運営と管理を委ねる。
- (2) 委員会は、(州)政府によって指名された**議長と8人の委員**で構成され、**その全員がインド人で、4人は仏教徒、4人はマハントを含むヒンドゥー教徒となる。**ただし、マハントが未成年者もしくは精神異常であるか、または委員会に出仕することを拒否した場合、別のヒンドゥー教徒委員がその地位に指名されるものとする。



1949年 ブッダガヤ寺院法第3項 「委員会の設置」

- (3) ガヤー地区行政長官が、職権上、委員会の議長となる。
ただし、(州)政府は**ガヤー地区行政長官がヒンドゥー教徒ではない期間、委員会の議長としてヒンドゥー教徒1名を指名するものとする。**
- (4) (州)政府は、委員の中から委員会の委員長を務める人物を指名するものとする。



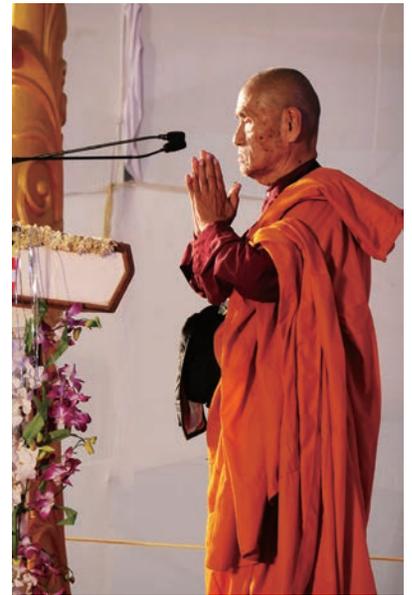
体験記

立正大学特任講師 佐々木一憲

10月17日から20日まで「龍族の都」ナグプールに滞在し、佐々木上人の活動を間近で拝見する機会に恵まれました。

8月に大学のインド研修旅行で上人のもとを訪れたことがご縁となって実現した今回の訪問、後から考えると、何とも不思議な巡りあわせが重なって実現したことのように思われてなりません。

そもそもこの巡りあわせは前述の研修旅行の日程にナグプールを加えたことから始まります。研修のテーマが「インドにおける仏教の衰亡と再興」に決まった際に、「とにかく行かなければならない！」との直感に従ってなれば無理やり旅程に加えたのでした。一般的な仏跡参拝のルートから遠く離れている上に、行き先のナグプールは日本人にはほとんど知られておらず、調べようにもガイドブックにも載っていない町とあって、旅程を知らされた参加者はみな一様に首を傾げるばかり。「このナグプールって何ですか？」と何人からも聞かれました。旅行会社の担当者にも「改宗広場以外に何も見るものはないですよ」と言われま



したが、現代インド仏教を考える上でアンベードカル博士の改宗という「事件」は決して外しては考えることのできないことなんだ、と言って押し切り、訪問を決めてしまったのでした。

もう一つ大きかったのは、今年度から大学の研究所に上人のお弟子さんの中村龍海さんが入ってこられたことでした。私たち一行は龍海さんを通じてマンセル遺跡の存在を知ることになったのですが、何より驚いたのは、そのマンセル遺跡の発掘を進めていらつしやるのがあの佐々木上人なのだという事実。お名前を伝え聞くだけだった現在進行形の立志伝中の人物が急に身近に感じられて、一行のナグプール行きの機運は俄然高まったのでした。

この二つの条件がそろった途端、事態は急展開をみせ始めます。後は事の赴くまま、あれよあれよという間に私はナグプールへと向かう一本道の上を歩き始め、



気が付いた時には上人のもとにいざなわれていました。

さて、10月17日のお昼頃、ナグプールに到着した私は、お迎えに来てくださった龍亀さんたちに改宗広場（デイーク・ブーミ）に連れて行っていただき、研修旅行以来2カ月ぶりに上人にお目にかかりました。

授戒式会場についてまず思ったのは「想像していたのとは違うなあ」ということでした。当初私は、アンベードカル博士の伝記映画に描かれていたような、広場いっぱい集まった希望者たちに一括して戒を授ける大規模な式典が行われ

るのだろうかと思像していました。しかし、実際の式の様子はそれとはまったく違っていたのです。大きなテントの下で希望者が20〜30人ほど集まる毎に繰り返される派手さのない地味な授戒式。聞けばそれを朝から夕方までの数時間、三日に渡ってひたすら続けられるとのこと。告白すると最初は拍子抜けしたような思いもあったのです。

しかし、よくよく考えるとこれほど凄まじいことはありません。派手な一回の式典なら誰でも勢いでできてしまうかもしれませんが、この地味な式を三日やり続けることがどれほど大変なことか……。この時改めて、この方は本物だ。インド仏教の再起は、本物の方が本気で取り組んでいることなんだ、と強く実感させられたのでした。

ご挨拶に何うと、開口一番「よく来たな！」と上人一流の良く通る大きなお声で迎えて下さいました。そのお声を聴いて、やっとたどり着けた、とホッとしたのもつかぬ間。次の一言に愕然とさせられます。「三人で来ると言っていたのに一人で来たのか？ あなたにはね、今日スピーチしてもらおうから！」と上人はさっぱりとおっしゃいます。あわてて「上人、私は人前でスピーチできるほどヒンディー語も英語も話せません！」と返すと、「じゃあ、日本語でしてください。私が通訳するから」と。上人にここまで

おっしゃっていただいたら「できません」とは言えません。腹を括りました。

上人がナグプールの改宗式で初めてスピーチしたときのエピソードを思い出し、とにかく最初に「ジャイ・ビーム！」をあらん限りの大声で三唱してやれ。そうすれば緊張も何も吹っ飛ばさるうさ、と心に決めてステージに上がりました。順番が回ってきて、マイクの前に立ちます。一息深く吸って、渾身の気持ちを込めて「ジャイ・ビーム！」を三唱。あとは夢中で、到着してから半日の間、会場を歩き回るなかで痛いほど感じた現代インド仏教徒の「本気」の意気込み、それに対する日本の仏教徒の体たらくについてスピーチをしたように思います。気が付いたら自分の順番は終わっていました。

実はこの話にはオマケがあります。私の話にどこか上人の思いと重なる所があったのでしょうか、話が進むにつれて上人も段々気分が乗ってこられて、私が話した内容を5割増し位に膨らませて通訳して下さいようなのです。

翌日、上人がニコニコしながらおっしゃいます。「今日の新聞に『日本でアンベードカル全集の出版が決まった』と出ているぞ。昨日はちょっと訳し過ぎてしまったみたいだな。」

以上

援組織)の事務局をされている長命密寺(広島県神石高原町)住職の佐伯さんに

私は頭をまるめ、インド人の僧侶希望者、2000人と共に得度式に参加しては

6ヶ月の間インドへ滞在しては日本に帰

泥だらけ、糞だらけ、傷だらけ、

インド民衆の奴隷たらん

インド・ナグプールより

お坊さんだより その2

(『人権21』2018年6月号)

佐々井上人お弟子 亀井亀亀

(電話インタビュー 聞き手 菅木智子)

ーインドに行くきっかけ、佐々井上人との出会いについて教えてください

・出会いと得度まで

私がインドに来ることになった最初のご縁は、2016年7月、広島県の宮島に越して8ヶ月が経った頃です。

当時、私は大学の後輩二人と一緒に山の上でおにぎり屋さんを営んで生活していました。そこに後輩のお父さんの友人というご夫婦が尋ねて来られ一緒に食事をする事になったのです。その席で会話を重ねている内、ふと佐々井上人という方がインドで仏教復興運動をされている一昨年(2014年)に病で倒れ、現在日本から上人の身の回りの世話や日本食を現地で作る方を募集している。亀井さん行きませんかと声をかけられました。

3週間後、私は南天会(佐々井上人支

詳しいお話を伺いに行きました。

そして、2016年10月、私は南天会の第5次派遣員として日本人ツアー一行と共にインドへ行くことになったのです。当初は2ヶ月で帰国する予定でした。

インドへ着き佐々井上人に会いに行くのですが、その場所には何万人もの人がごつだがえしており、インド人の添乗員さんは私たちが迷子にならないようにロープを用意しているほど会場はたくさんの人であふれていました。

その広場では毎年、改宗記念大祭(1956年10月14日、初代法務大臣B・R・アンベードカルが不可触民衆30万人と共に仏教徒に改宗したことを記念する祭典。彼は1950年に施行されたインド憲法起草者で、その憲法によって不可触民制、カースト差別の撤廃を成し遂げた英雄である。また彼自身も不可触民出身であった)が開かれており、佐々井上人はそこで大導師としてインド各地から訪れる民衆の仏教改宗式を行われていました。

そこから佐々井上人の傍にお仕えし1ヶ月が経ち、私は上人にお坊さんにして下さいとお願いしました。上人は「よし! 来週地方で得度式があるからそこでお坊さんにしてやる」と快諾して頂きました。

私は頭をまるめ、インド人の僧侶希望者、2000人と共に得度式に参加しては

ー日本へ帰国されて周りの反応はいかがでしたか

・自然な流れの中に

インドで4ヶ月を過ごしたあと、2017年2月、日本に僧衣をまとって帰って来ました。私の姿を見て母親は泣き崩れてしまいました。洗脳されたところでも母親は頼むからその服を脱いでくれと言います。

その他の友人たちは不思議と自然に受け入れてくれました。私自身、急激な変化を感じたこととはなく自然な流れの中にいるという感覚がありました。

それからはビザの関係で、3ヶ月から6ヶ月の間インドへ滞在しては日本に帰



▲上人を車にのせ行進する。町につく頃には数千人へと民衆が増えていって。

り、またインドへと行くという暮らしをしていきます。

日本の人は私の風貌を見て、インド人のお坊さんのように見えるといいいます。しかしインド人からはネパール人のように見えるようでインドでは私は日本人には見られません。

・インドの人たちと会話する毎日

インドでは公用語のヒンディー語を勉強しています。コミュニケーションは身ぶり手ぶりで通じるのですが本当に伝えたいことや細かなニュアンスは言葉を話せないと伝えることができません。その面では毎日のがゆい思いをしています。逆に話せない分、しっかりと考えることができます。

バンテージのもとで修行して2年弱、日本に帰りたいと思ったことはありませんが、お風呂に入りたいとか、日本のお味、噌汁や甘いものが食べたいと思うことが



▶ナグプール、インドラ寺周辺。子供や若者、住民とお坊さんが町の中で一体となって暮らしている。

インドでの将来について、先が見えるようなことはまだありません。一日一日、インド民衆と一体となること、それがどういうことなのか師匠の姿をみて学ぶ日々です。

―インドでの活動について教えてください

・ブツダガヤ大菩提寺管理権返還運動

私の御師匠である佐々井秀嶺上人は今年で83歳になられます。インドにいられて51年間、インド国籍を取得されて民衆と一体となって活動されておられます。その活動の使命は大きく三つ。

- 一つ目は、インドでの仏教復興。
- 二つ目は、ブツダガヤ大菩提寺管理権の返還。
- 三つ目は、龍樹菩薩の顕彰。

今回はこの二つ目のブツダガヤ大菩提寺管理権の返還運動について、インド仏教徒との関係も合わせてお話ししたいと思います。

ブツダガヤは仏陀がさとりをひらかれた場所として世界遺産にも登録され仏教徒の一大聖地となっています。しかし、この聖地は18世紀頃よりヒンドゥー教バラモンの管理下となり、現在もおヒンドゥー教徒主体の管理法が適用され、治安や寄付金管理などで多くの問題を抱えて

ています。佐々井上人はこの状況を目にして、1992年から現在までインド仏教徒と共に幾度となく、何千キロと離れたムンバイ、ナグプールなどからブツダガヤを目指しデモ行進を行ってきました。

インドの仏教徒は心から返還を望んでいます。なぜなら多くのインド仏教徒がヒンドゥー教のカースト制度によって抑圧、差別されてきた民衆だからです。カースト差別のない、インド発祥の仏教に改宗して初めて人間としての誇りを取り戻しつつある民衆なのです。ブツダガヤをとり戻すことは世界仏教徒の大誓願であるだけでなく、ヒンドゥー主義から何千年と差別、抑圧、人間以下の暮らしを強いられてきた彼らの誇りを取り戻す闘いでもあるのです。

彼らから私は問われました。なぜこの運動に仏教国でもある大國の日本は応援してくれないのか、日本で生まれて命をかけてこの問題に取り組んでいる佐々井上人の助けをしないのか。私は言葉に詰まりました。

残念ながら、日本ではこの問題自体を知る機会もないのが現状でしょう。佐々井上人は2012年よりこの問題をインド最高裁に訴えておられます。この裁判が6年かけて2018年7月より、ようやく本格審議に入りました。しかし、いつ結論がだされるのかまったくわかりません。インドでは何十年と結審されてい

ない裁判がざらにあります。この問題の解決にはインドのみならず世界中からの応援の声が不可欠です。仏教徒の声はひとつです。仏陀がさとりをひらかれた聖地は自分たち自身の手で運営したい。ただそのひとつです。



▲畑に綿の種をまく女性たち。

すかめい りゆうき 僧侶 インド在住

「人権21」 2018年8月号 No.255

南天会会計報告(H30. 9. 1~H30. 12. 31)

単位:円

月	日	摘要	収入	支出	差引残高
		前期繰越	2249058		2249058
9	17	インドへ荷物発送		11600	2237458
9	18	本販売	18000		2255458
9	20	NHK「こころの時代」再放送出演料	27135		2282593
9	21	亀井インド渡航費援助		141070	2141523
9	25	龍族13号発送(342通)		70110	2071413
9	25	ブツダガヤ大菩提寺返還運動パンフレット印刷		8888	2062525
9	25	佐伯・亀井 高野山出張費用 ※1		30000	2032525
9	25	大菩提寺裁判費用援助送金 ※2		1000000	1032525
9	30	会費・支援金(振込)	37000		1069525
9	30	大菩提寺裁判費用援助(振込)	99000		1168525
9	30	振込手数料合計		950	1167575
10	9	海外郵便物発送		1780	1165795
10	18	葉書・切手代		2065	1163730
10	19	本販売	4510		1168240
10	25	佐々井上人11月来日渡航費		267480	900760
10	30	会費・支援金(現金)	15000		915760
10	30	会費・支援金(振込)	159100		1074860
10	30	大菩提寺裁判費用援助(振込)	237000		1311860
10	30	振込手数料合計		1050	1310810
11	10	名古屋集会カンパ	148320		1459130
11	10	名古屋集会本販売	22800		1481930
11	10	佐々井上人へ支援金 ※3		100000	1381930
11	10	大菩提寺裁判費用援助送金 ※4		1000000	381930
11	12	東京集会カンパ	1080000		1461930
11	12	東京集会本販売	24500		1486430
11	12	名古屋・東京集会催行費(会場使用料・印刷・横断幕制作等)		73288	1413142
11	12	佐々井上人来日滞在費用(宿泊費・交通費・食費等)		127070	1286072
11	14	会費・支援金(現金)	15000		1301072
11	21	食材・食器購入		10353	1290719
11	22	インドへ荷物発送(3個口)		26205	1264514
11	30	会費・支援金(振込)	60000		1324514
11	30	大菩提寺裁判費用援助(振込)	2110000		3434514
11	30	インドへ送金(大菩提寺裁判費用援助) ※5		2980340	454174
11	30	送金・振込手数料合計		9730	444444
12	10	龍族12,13号印刷費用		76100	368344
12	28	会費・支援金(振込)	41915		410259
12	28	大菩提寺裁判費用援助(振込)	40000		450259
12	28	振込手数料		600	449659

会計報告 注

※1＝高野山大学アンバードカル博士像前でのセレモニーへの参加(日程変更のため参加できず)と、高野山国際局他関係寺院にブッダガヤ大菩提寺返還運動アピールをして参りました。

※2＝亀井さんに託して佐々井上人へお渡ししました。

※3＝日本滞在時の活動資金として佐々井上人にお渡ししました。

※4＝佐々井上人に直接お渡ししました。

※5＝ゆうちょ銀行よりインド口座へ送金。国際送金の金額制限等で端数となっております。

(会計の詳細な資料は、事務局にて保管しております。龍族発行ごとに会計報告を行い、世話人会にて監査を実施いたします。ご不明の点等ございましたら事務局までご連絡ください。)

【特別支援金寄附者御芳名】 ※敬称略 年会費とは別に南天会に支援金をいただいた方のお名前です。
伊藤友人 漆間徳然 柏内敏子 梶山輝彦 川内加子 小山美津江 下村栄美 諏訪原和幸
田中徳雲 廣部秀樹 廣部みち子 福瀬くに子 宮島雅史 米盛輝雄
その他、世話人賛同人各会員の皆様から様々なご支援をいただいております。

◆南天会現況(平成三十一年一月現在)

正式会員数 211名

賛同人(五十音順・敬称略)

漆間宣隆(浄土宗浄土院住職)

・前岡山県佛教会会長

奥平心月(釣月庵庵主)

織田隆深(高野山真言宗真成院住職)

・密門会会長

小野重徳(仏国土の会会長)

黒澤雄太(剣士・日本武徳院師範)

小池一郎(株式会社マクシス・シンター
常務取締役)

島影 透(株式会社サンガ社長)

高山龍智(佐々井上人お弟子)

土屋信裕(顕本法華宗)

弘通所法華行者の会主宰

富士玄峰(臨濟宗)

・元ナグプール同友会世話人

宮淵泰存(日蓮宗妙光寺住職)

・長野県修法師会会長

宮本光研(真言宗御室派元執行)

宮本龍勝(佐々井上人お弟子)

山本宗補(フォトジャーナリスト)

※賛同人について

当会の主旨を理解し、協力、推薦する人を

賛同人とし、お名前を公表させて頂いてお

ります。

賛同頂ける方は是非お申し出ください。

※世話人について

南天会諸業務をお手伝いいただける方は皆

世話人とし、特に任命等はいたしませんので、

どなたでも気軽ににご参加ください。



ご支援・
会費について

《各種お振込先》

【金融機関名】ゆうちょ銀行

【加入者名】南天会

【口座番号】

01380-0-90164

「龍族」同封の振替用紙、もしくは郵便局備え付けの振替用紙をご利用下さい。

(南天会事務局)

〒710-0004

岡山県倉敷市西坂 1582-1 一心念誦堂内

TEL/FAX 086-463-9391

佐伯隆快 (090-5304-8955)

小林三旅 (090-4538-2677)

メール nantenkai@gmail.com

URL <http://www.nantenkai.org/>

最新情報は
Facebook『佐々井秀嶺資料室』
をご確認ください。



【会員種類と年会費】

支援会員 10,000円(会費+支援金)/年

一般会員 5,000円/年

学生会員 2,000円/年(※大学生まで)

龍族送付封筒の宛名ラベルに「会員種類」と「会費納入済み年」が記載されています。

【インド最高裁裁判費用支援】

・支援金は当会でとりまとめ、インドのブッダガヤ大菩提寺解放本部の口座に送金いたします。

・支援者の方には、南天会会報「龍族」にお名前を記載し、裁判経過および返還運動の状況を報告いたします。

※「大菩提寺裁判費用援助」と明記ください。

【その他ご支援】

随時受け付けております。ご入会を希望せずご支援のみの方は、通信欄に「入会不要」とご記入下さい。